

第4回豊岡市老人福祉計画・第9期介護保険事業計画策定委員会議事録

2023年11月15日（水）13時30分～15時30分

豊岡市役所本庁舎 3階 庁議室

注) この議事録要旨については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部簡略な表記としている箇所があります。

出席者：福井委員長、池本副委員長、上崎委員、山本委員、森本委員、三谷委員、田中委員、
田村委員、由良（妃）委員、由良（温）委員、細見委員、守本委員、藤田委員、濱上委員
(欠席：中村委員、西川委員)

配布資料

- ・次第
- ・資料1 第9期計画期間中の人口推計及び認定者推計
- ・資料2 施設等整備計画について
- ・資料3 第6章「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」
(第8期計画の実績報告と第9期での取り組み方針（案）について)

1. 開会

2. あいさつ

3. 報告事項

(1) 第9期計画期間中の人口推計及び認定者推計について 資料1

—第9期計画期間中の人口推計及び認定者推計について説明の後、質疑応答—

● A委員

軽度の要介護認定者と要介護3以上の重度者で分けられると思うが、今後の軽度の要介護認定率について市としてどのような方針か。数値に意図はなく、推計値を書いているだけか。

● 事務局

人口からの推計値を掲載している。基本的に、ケアマネジャー等からの内容や基本チェックリストに基づいて判断するので、申請されたすべての方が要支援認定になるわけではない。

● 委員長

圏域別の人団推計をみると、例えば城崎圏域は2020年度や2025年度の人口が前年より増えている。2020年度は、竹野・日高・出石・但東圏域も増えており、豊岡圏域が大きく減っている。2024年度も同じような傾向がみられる。国勢調査と関係があるのかもしれないと思ったが、要因が分かれば教えてほしい。また、要介護認定率の推移の説明として「本市の認定率は現在までは概ね19%前後で推移しており、全国・兵庫県に比べると低くなっています」と書かれており、確かに県より2ポイントくらい低くなっている。何が要因か。

- 事務局

人口推計は住民基本台帳の実績値を基に算出しているため、国勢調査とはリンクしていない。また、2020年の人口はあくまでも実績として出ている数字であり、増加の要因は把握できていない。要介護認定率については、豊岡市は元気な高齢者が多いと認識しているが、詳しくは分析していない。

- 委員長

2025年度の推計値の増加は考えにくい。

- 事務局

コーホート要因法を用いて算出しているが、人口推計の委託業者に確認し、次回回答する。

- B 委員

城崎圏域の人口は今年3,300人くらいだが、推計ではだんだん増えている。現状はだんだん減っており、2,000人になるような危機感を持っている。600人も増えるのは実際にはおかしいので、速やかに訂正すべきだ。2045年には4,000人くらいになる推計だが、まったくありえない。昨年度の出生数は8人、死亡数は50人と聞いており、人口減少の危機感があるので、間違ったデータは速やかに直してほしい。

- 事務局

城崎圏域は、港地区も含めた人口であり実際の城崎だけの人口ではないが、確認し訂正すべきところは訂正する。

4. 協議事項

- (1) 施設等整備計画について **資料2**

—施設等整備計画について説明の後、質疑応答—

- C 委員

市内では竹野に安い施設があるが、あとは15万円位で、高いから入れられないとか、介護保険を使っても大変だという方がいる。厚生年金をたくさんもらっている人は十分入れると思うが、国民年金だけの人は、安い施設でないと無理という人もいる。そういう軽費の施設はもうできないのか。

- 事務局

特別養護老人ホームは今の制度に合った設備基準にしなければならず、個室化しユニット型にしてプライバシーに配慮するようになっている。以前は多床室で金額を抑えていたが、今は個室化しているため基準単価が上がっている。また、介護度に応じて報酬単価が決められている。さらに、食費や居住費が別途かかり、所得に応じて負担も変わるので保険外でかかる費用が高く感じられているのだと思う。

- 副委員長

従来型の施設は多床室で、ユニット型の施設は個室なので、料金が全然違う。また、居住費

や食費は限度額申請の該当者になるかならないかで補足の給付が全然違うので、10万以上の差が出ると思う。報酬単価は国が決めておりどうしようもない状況だ。

● D 委員

認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護について、「第6期以降事業者の参入がなく」定員数は横ばいで、「第9期中の整備は行わない」と書かれている。認知症の方は増えており、今後の整備の充実が必要と思うが、市の考え方はどうか。

● 事務局

稼働率は99%程度で推移している。認知症の方は増加する見込みだが、市としては施設入所より在宅介護を充実させていきたい方針であり、新たな施設整備は最小限に抑え、在宅で介護できるサービスを充実させていくため、第9期ではグループホームの新規整備は考えていない。

● D 委員

家族の精神的負担が非常に大きく、家族支援をどう考えているか。また、デイサービスのよくなきことができるだけ通所ができる施設があると家族の休息になるが、どのように考えているか。

● 事務局

小規模多機能型居宅介護の整備を進める。この施設はデイサービス、ショートステイ、訪問介護を組み合わせた複合サービスであり、これを充実させることで、施設に入れない人の介護負担を軽減したいと考えている。また、24時間訪問介護ができる定期巡回・随時対応型訪問介護看護の事業参入も進めたいと考えている。

● D 委員

24時間の訪問介護は市の管轄か、社協か。

● 事務局

市が指定し、事業者がサービスを提供するもの。昨年度まで日高に1箇所しか事業所がなかったが、今年度に入り2事業所が開設した。兵庫県も拡大を進めており、いろいろな補助金がある。新しく開設した2事業所は、人件費補助等を活用し安定的なサービス提供に努めていただくよう、市も取り組んでいる。

● 事務局

認知症の方の人数は右肩上がりの予測であり、家族も困って施設入所の希望があると思う。しかし、グループホームの稼働率は100%に近いものの第8期中もこの稼働率で推移しており、特に待機者が出ている状況とは聞いていない。そのため、要介護1・2の方は地域の中で在宅介護を充実し、要介護3以上の方は特別養護老人ホームの入所も可能になるので、必要な施設に入所していただくことを考えている。

● A 委員

保健所の医療計画でも、認知症対策として認知症患者の退院支援、地域の中で認知症患者を支えていけるように、一体的支援プログラムを進めている。認知症カフェ以外でも、本人と家

族の関係性を良くしていく取組を進めていく予定。今回は施設整備についてだが、そういうことも含めて認知症対策を検討していただき計画に反映してもらえるとありがたい。やはり、施設整備だけではなく認知症の人も暮らせるまちづくりも大切なので、地域づくりや関係性づくりにしっかり注力して、支え合えるようなまちづくりを進めていきたい。

(3) 第8期計画の実績報告と第9期の取り組み方針（案）について 資料3

—第8期計画の実績報告と第9期の取組方針についてについて説明の後、質疑応答—

● E委員

訪問介護の第8期の評価・課題について、「市内の3事業所がヘルパーの退職等に伴い廃止されました」ということで、事業所が減っている中での今後の方向性として「介護職員の確保・育成に努めます」ということだが、先ほど認知症の関係でも在宅サービスを充実させていくという方針を説明されていたが、特に訪問介護で支えていく必要があると思う。しかし、第8期の方向性と全く同じことが書かれている。3年前と現在はかなり状況が変わっていると思う。ヘルパーの退職等によって3箇所も事業所が廃止されているようなことは、3年前は多分なかったと思う。そういう状況の中で、今後の方向性として充実を図っていくには、前回と同じ内容では物足りない。

また、介護人材の確保と定着を重点施策として新たに取り組んでいくことが既に議論されている中で、これではあまりにも具体性がない。「県や各事業所等と連携を図り」と書かれているが、この3年間どのように連携しどのような成果・課題があったかを踏まえて説明いただきたい。切羽詰まった状態ですので、それらを踏まえて第9期の方向性を真剣に考えていただきないと、認知症の方はもちろん、在宅で暮らしたい方の希望を叶えることは難しいと思う。

● 事務局

人材確保については現在検討中。おっしゃる通り、介護人材の課題は大きくなっています、府内で協議中なので、方向性がきっちり決まれば皆様に説明する。

● E委員

この3年間で、県や各事業所とどのように連携を図り、どのような成果があったか。

● 事務局

県については、会議等でいろいろな話をさせていただき、人材確保に向けて協議している。各事業所については、春にアンケート調査を実施したため、意見の反映を検討している。

● E委員

第9期の方向性の内容が第8期と同じでは現状の把握が不十分だ。具体的なことは結構だが、もう少し充実していく前向きな表現をお願いしたい。

● 事務局

第8期中の方向性として「県や各事業所等と連携を図り、介護職員の確保・育成に努めます」と書いていたが、結果として、この3年間は進んでいない。その反省の下、第9期は待ったなしの介護人材の確保・育成に背水の陣で取り組まなければならず、3年目の今年は施設長連絡

会議で意見交換をしたり、アンケート調査を実施した。求められていることを踏まえて原案を作り、現在庁内会議に諮っている。結果として、皆様の期待通りのものを出せるかわからないが、切迫感を持って議論していることをご理解いただきたい。

- 委員長

在宅で訪問介護を受けている人は何人で、何人のヘルパーで対応しているのか。マンパワー不足をとても懸念しているし、ヘルパーの高齢化という課題もあると思う。それらも含めて第9期の方向性を教えて欲しい。

- 事務局

訪問介護の利用者は1月650人前後で推移している。市の訪問介護事業所が有するヘルパーの人数は把握していない。第9期の方向性は現在協議中のため次回以降説明する。

- D委員

訪問介護の第9期の方向性に「離職防止」と書かれているが、離職される方は結構いると思う。働く技術を持っている人を再度職場に戻したり、元気な人は働いてもらえるとありがたいので、事業所別の離職率のデータが欲しい。

- 事務局

各事業所の離職率は、事務局では把握していない。離職防止の補助金の関係は、介護士2人で訪問する場合は利用者の同意が必要ですが、同意が得られず2人で訪問する場合、介護報酬は1人分しかとれないので、県もなるべく離職にならないように補助金制度を設けている。また、潜在化している人材や一度リタイアされた方の活用も今後は必要だが、そのような方が現在どれくらい市内にいて、どうして離職しているのかという詳細は把握できていない。そういう方たちにヘルパーの研修を受けていただき、担い手になっていただければ大変有効なので進めていきたい。

- 委員長

居宅療養管理指導と訪問診療に違いはあるのか。

- 事務局

訪問診療は医療行為。居宅療養管理指導は薬剤師等により提供されることが多く、療養上の管理や指導で医療ではない介護の分野。

- F委員

往診に行き、家で過ごして床ずれが発生しないように生活指導をしたりするのが居宅療養管理指導。日頃行っている訪問診療や居宅療養管理指導で時々体の向きを変えたりエアマットの導入の声掛けをしたり、既に普及している。

- G委員

居宅介護・介護予防支援について、第8期の評価・課題として人材は現在110人おり、供給体制は整っているが、今後は人材確保と育成が課題と書かれている。また、第9期の方向性に

は、各種研修会等を実施して人材の確保・育成を図っていくことが書かれている。来年度から、義務化されることが多く、これはケアマネジャーの事業所だけではないが、例えばBCPの研修や感染症の研修等、各事業所に求められることが非常に多くなる。各事業所で取り組んでいかなければならぬが、市の研修にも盛り込んでいただき、ケアマネジャー以外の事業所も対象に実施していただけないとありがたい。また、人材確保に努めるという点では、なかなか方向性がないとみている。日頃ケアマネジャーは多忙で、困りごとを聞くと、仕事がしやすい環境と一緒に考えてもらいたい、一緒にケアマネジャーを育てて欲しいということだった。そういう方向性で定期的にお話ができ、事務も少しでも簡素化できればありがたいので、なんとかお願ひしたい。人材の確保は難しいが、今の人材の定着に力を入れてもらいたい。

● 事務局

ケアマネジャーとの意見交換では様々な意見があり、人材確保・定着をなんとかしなければならぬ、まず、研修会等何ができるか考えていく。また、現在いるケアマネジャーの定着については現在協議中なので、お示しできるようになれば説明する。

● A 委員

地域医療構想において、但馬には慢性期病床が少なく、日高も4月から診療所に再編し、近隣より病床が少なく慢性期患者が流出していることが問題になっている。一定の医療依存度がある方、例えば酸素吸入等の医療的措置をされていることもあると思うが、療養病床の整備だけでなく介護医療院の整備をどう考えていくかが課題。一方、2026年までに小規模多機能型居宅介護を1箇所増やせるかどうかも含めて、職員も確保が必要で難しい状況だ。増えていく高齢者をどこで受け止めるのか、医療と介護をセットで考え、また、人の確保も非常に重要だ。

一質疑応答は以上。事務局案を承認。一

5. その他

(1) 次回策定委員会

開催日時 2023年12月20日（水）午後1時30分～

開催場所 豊岡市民会館 3階 ギャラリー1・2

6. 閉会